

したが、次いで登山紹瑛に大乘寺に参隨し、歳を経て研究止まず、終に能く旨を得た。明峰はより錫を曳いて東西に遊歴し、洞濟の宗師に謁したに皆之を器とした。正中二年八月八日永光寺の二代位に晋み、一住十餘年叢席を成し、名望彌高かつた。元弘三年天下大に亂れ、戎馬野に徧かつた。時に二品尊法親王、高德の沙門を擇び、兵災を攘ひて天下の靜平を致さしめんとし給うたが、明峰も亦これに與つた。是を以て北條氏亡びて天皇の京に還幸し給うた後、羽咋郡若部保を寄進して寺産に宛て、寺を陞せて勅願道場とし給うた。正平元年(貞和二)明峰大乘寺に移る。後世大乘寺に於いて明峰を三代とするものは、之に先だつて恭應運良が臨濟の徒にしてこの寺を置したのを列位から省いたのである。後

又越中光禪寺に請ぜられてその第一祖となつた。明峰後進を誘掖するに尤も道を得たから、嗣法の徒廿一人の多きに及び、其の中無福素崇・辨翁・祖舜・玄惠・珠盛道珍・古銘宗鑑・玄路統立・館開祖生・曉仁・不借玄位・月庵瑛瑛・松岸旨淵の草創した伽藍は、永光寺下の十二門派と稱せられた。正平五年(觀應元)三月二十八日遷化、壽七十四。門徒塔を永光寺内に建て、之を紹燈庵と號した。

ミヨウホウツカ 明峰塚 石川郡太平寺(部落名)の松林中にある塚は、寶永誌に明峰和尚の塚であるとしてゐる。しかし墳上に碑を建て、大乘寺開山和尚茶毗墳としてあるから、徹通の灰塚であるかと思はれる。又寶永誌に石川郡吉野村の寺町といふ所は祇陀寺の跡で、明峰の墓があるといひ、今も小碑を立て、開山云々と記してあるが、開山は大智

でその師明峰ではない。且つ大智は肥後聖觀寺で寂し、明峰は越中光禪寺で寂してゐるやうであるから、何れも疑はしい。

ミヨウホウノイハヤ 妙法の窟 永正五年の白山禪定私記に泰澄の事を記して、『靈龜二年に下白山の舟岡の遊り妙法の石室に入て觀念まことをいたし、呪遍劫をつみ、天に仰ぎ地に伏して靈驗を祈り給ふ處に、夢中に貧女の白馬に乗りて、今の拜殿の前のひら岩の上に立て和尚にまみえて云々』とあり、その石室は今の白山比咩神社から鶴來へ出る道路の側なるものと傾斜地蔵のあつた所だといふが、泰澄の事蹟自體からが確實とはいひ得ぬ。

ミヨウホウリン 妙法輪寺 羽咋郡麥生に在つて、日蓮宗に屬する。貞享の由來書に、元は法輪寺といひ眞言宗であつたが、日源の時改宗し、日源は至徳三年に寂したとある。境内に老南天樹があつて、幹の數廿八本、その高さは八米に及ぶ。太さは、その最大なものでも目廻八厘に及ばない。

ミヨウマンジ 妙萬寺 鹿島郡半浦に在つて、眞宗西派に屬する。

ミヨウユウ 明祐 加賀の人。戒律に精しく、兼ねて華嚴を觀宿に稟け、選ばれて東大寺戒壇和尚となつたが、毎夜大殿に宿して、房舎で寢なかつた。應和元年二月十八日寂。歳八十四。

ミヨウラクジ 妙樂寺 河北郡津幡に在つて、眞宗東派に屬する。初め同郡五反田に居たが、明治二年初めて寺號を公稱し、十二年五月今の地に移つた。

ミヨウラクジ 妙樂寺 鹿島郡江曾に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウラクジ 明樂寺 石川郡荒屋柏野に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十一年初めて寺號の公稱を許された。

ミヨウラクジ 明樂寺 鳳至郡乙崎に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウリキジ 明力寺 鳳至郡北河内に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十三年七月寺號の公稱を許された。

ミヨウリュウジ 妙立寺 金澤泉寺町に在つて、正久山と號し、日蓮宗に屬する。寛永二十年日通之を蓮上町に創建したが、後新墾町に移り、萬治二年更に今の地に移つた。

ミヨウリヨウコウイジ 靈陽兩公遺事 一名微妙公御夜話。前田利常及び光高の行狀談話を擧げる。寛永頃の筆記であらうといふ説がある。

ミヨウリン 妙林 石川郡北安田の小字。日像巡化の際こゝに妙林尼が居て之に歸依し、靈佛を給はつて安置したと傳へる。又妙林が日像に供養するものゝなかつた爲、軒端の澁柿を焼いて獻つたが、日像は種子を地に埋めて再び芽を發せしめた。後世妙林柿といはれるものはこれから分かれたので、その種子が焦げた如くになつてゐるといふ。柿柿として美味である。

ミヨウリンガキ 妙林柿 ↓ミヨウリン 妙林。

ミヨウレン 妙蓮 一に瑞蓮ともいふ。金澤木、新保持明院境内の池中に生じ、古來多頭蓮とも並頭蓮とも稱せられたものであるが、現に當寺若しくは當寺から分植したものの外に之を見ぬ。大正十二年三月五日文部省

から天然記念物に指定せられた。妙蓮は蕾及び半開の間は普通のものと同じい、開花して外部なる共同花瓣の脱落する時は、二三輪乃至八九輪の花を一莖の上に顯す。この花は重瓣で、雄蕊・雌蕊共に變形して花瓣様を呈し、子房は全く退化する。各個の花のうちに更に數個の小花即ち花瓣群があり、花瓣の總數三千を超えるものすらある。

ミヨウレンジ 妙蓮寺 石川郡松任に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨウレンジ 明蓮寺 羽咋郡長澤に在つて、眞宗東派に屬する。

ミヨシカタナホ 三好賢直 通稱善藏、字は子達。初め瀧川有父の次子正直出で、御家用者三好乙三郎賢能の嗣となつたが、幾許もなく死去したから、正直の弟賢直その後を承けた。未詳算法第十八編・双鉤招差 改正額類の著がある。明治十三年十一月十一日歿、享年五十九。

ミヨシカタヨシ 三好賢能 通稱乙三郎。御算用場の更で、祿三十五俵。算法を能くし、その未詳算法の解釋が遺されてゐる。初め瀧川有父の二子正直を養子とし、正直の歿後その弟善藏賢直を養子とした。

ミヨシサスケ 三言左助 祿五百石を受け、元和元年大坂の再役に従うて、五月七日戰歿した。その嫡統は孫左助の時早世して斷絶し、支族は左助の孫助左衛門兼好が寶永二年二月自殺し、兼好の弟六承は三好氏を稱したが、亦不行狀で改易せられた。

ミヨシマサナホ 三好正直 通稱不詳。瀧川有父の二子で、三好賢能の養嗣子となつたが、幾くもなく歿した。